

ビジョンに掲げるアプローチと 京都市の関連事業の紹介

文化市民局 地域自治推進室
令和8年7月30日（木）

目指す姿① つながる と京都市の取組

アプローチ① 活動の見える化、魅せる化

自身にとって身近な領域の活動への参加につながるよう、活動のビジュアル化やデジタル化支援も含め、参加の入口の見える化や一人ひとりに届く情報発信を進めます。

アプローチ② 多様な関わり方の促進によるつながりの拡大

市内居住者に限らず、京都市に関わるあらゆる人の参加を促進します。
また、市内居住者の方が、住んでいる地域だけでなく、通勤・通学先の地域で参加するなど、活動への多様な関わり方を受け入れる機運を醸成し、つながりの拡大を進めます。

アプローチ③ 身近な公共空間における気軽に参加できる機会・場づくり

学校や公園、商店街などの身近な公共空間において、学びや趣味などの興味・関心をきっかけにした参加や、楽しみながら関われる仕掛けなど、市政やまちづくりへの参加の機会づくりと場づくりを進めるとともに、友人・知人など信頼できる人からのポジティブなお世かけをきっかけとした人と人とのつながりの形成を進めます。

京都市の取組例

● 地域ICT化推進事業助成

地域活動に参加しやすい環境づくりや、住民同士のコミュニケーションの円滑化、場所や時間を問わない柔軟な関わり方を可能にするICTツールの更なる普及・定着を図っていくに当たり、地域団体のICT導入促進のための費用を助成する。

● 企業と地域との連携促進事業

地域課題を「企業にお願いして解決してもらう」スキームではなく、企業の「やりたいこと」「技術・リソース」を地域の困りごとに接続し、改善・解決を目指す。

● 学生と地域との連携促進事業(京都ローカル・ダイブ)

地域住民・大学生・行政が協働し、地域を活性化するため、それぞれの強みを生かして、テーマに沿って取り組む。



● 区役所庁舎等における公共空間のアップデート

地域住民等の居場所や交流の拠点といったサードプレイスを目指し、区役所庁舎等の空きスペースを活用して居心地の良い空間づくり、場づくりを進める。



▲ 伏見区役所1階ロビー
誰もが緩やかにくつろげる心地良い空間
「サロンスペース」設置の社会実験
(R7.12.8~25)



▲ 洛西支所 1階ロビー
アウトドア体験スペース
(①R7.8.4~21、②R8.8.10~24)



▲ 左京区役所1階ロビー
左京地域コミュニティHub
起動イベント
(R7.12.8~25)

目指す姿② 支え合う と京都市の取組

アプローチ④ 多様な違いを受け止め、支え合うまちづくり

高齢者、障害のある方、子ども、言語や文化的背景が異なる方、仕事、学校、家庭等で様々な事情がある方も、互いに認め合い、個性を活かしながら身近な地域での支え合いの下で暮らせるまちづくりを進めます。

アプローチ⑤ 人材づくり、ネットワーク化

次代を担う方、市政やまちづくり活動に関心のある方の活動意欲を高めるとともに、多様な活動間の「結節点」となる市役所・区役所内外の人材づくりや、多様な主体間の交流、ネットワークづくりを進めます。

アプローチ⑥ 主体的・継続的に関わりやすい機会の創出

子どもから高齢者まで幅広い世代の市民、地域団体、福祉関係団体、NPO、企業、大学等の多様な主体が、それぞれの得意分野や専門性をいかし、市政やまちづくり活動に主体的・継続的に関わりやすい機会を創出します。

アプローチ⑦ 地域活動への参加

転入時の自治会・町内会加入の呼び掛けや、地蔵盆など身近な地域活動における未加入者と地域住民の交流促進、大学や事業者等との連携・協力などの参加につながる好事例の発信・共有などを通じて、地域活動への参加を進めます。

京都市の取組例

● 地域資源を活かしたつながり・支え合い創出事業 (重層的支援体制における参加支援・地域づくり支援)

区Hubの地域力推進室と保健福祉センター、社会福祉協議会などが連携し、世代や属性を超えて地域住民等が交ざり合い、居場所と出番が生まれる「場」づくりをコーディネートし、参加支援につなげる。



◀ 手芸を通じた高齢者の居場所づくり(右京区)

竹を活用した世代や立場を越えたつながりづくり(洛西支所) ▶



● つなぎ手人材研修

職員が庁内外の多様な主体と対話を重ね、ネットワークを構築し、協働して課題の解決に取り組む力を養成する「つなぎ手人材育成研修」を実施するとともに、研修を受講した職員が、多様な主体が対話し、交じり合い、つながる「結節点」としての役割を果たすことを目指す。



● 地域活動への参加促進

自治会・町内会の組織運営等の課題の解決に向けた支援や、新築マンション等の建設前に事業者と地域が協議していただく「転入者地域交流支援制度」の運用、チラシ・ポスターによる啓発、地域活動助成など、自治会・町内会をはじめとする地域コミュニティの活性化に総合的に取り組む。



◀ 地域コミュニティ活性化ロゴ

「暮らしの手引 2026」広告欄掲載 ▶
※ オンラインフォームによる加入連絡票も運用開始



目指す姿③ 創り合う と本市の取組

アプローチ⑧ 夢中になれる学び合いの機会の創出

身近な地域で育んできた多彩な技芸や技能、知識、経験などを活かしながら、子どもから大人までが夢中になって学び合う機会を創出し、市外や国外に住む人々ともつながりを広げ、豊かな地域コミュニティの土壌を育みます。

アプローチ⑨ デジタルツールの活用

住民同士の情報共有の迅速化や負担軽減、地域活動の参加等につながるデジタルツールの活用を進めます。

アプローチ⑩ 多様な主体の交ざり合いや対話、連携・協働の拡大

多様な主体と交ざり合い、対話を重ねて、つながりを深め、「ありたい姿」の実現に向けて連携や協働を一層進めることで、地域課題の解決や新しい価値の創出につなげます。

アプローチ⑪ 市政参加機会の拡大

政策の企画、実施、評価等の各段階において、市民が意見を伝え、一緒に考え、仕事を共に進めるなど、市政に参加する機会を拡大し、連携・協働を進めます。

アプローチ⑫ 行政協力業務のアップデート

市民の暮らしを支える行政協力業務について、今日的な意義や地域への負担の側面などを不断に検証し、時代に即した在り方へアップデートします。

京都市の取組例

● 多様な主体の交ざり合いや学び合いの場づくりによる居場所と出番の創出

地域の方々が育んできた多彩な魅力や価値に触れられる、夢中になれる学び合いを通じて、ゆるやかでひらかれたつながりを創出する。

(学び合いのコミュニティづくり)



● 地域ICTプラットフォーム構築事業

連絡調整に係る負担が少なく、幅広い世代が参画しやすい地域コミュニティを目指し、地域のデジタル化等を推進するため、電子回覧板等のスマホアプリを用いた連絡ツールを導入し、行政と地域コミュニティをつなぐICTプラットフォームを構築する。

● GRID KYOTO～京都まちの文化祭～

地域の魅力や多様なまちづくり活動を広く発信し、人と団体の新たなつながりを生み出す交流イベント。飲食・物販・ワークショップ・展示・ステージなどを通じて、活動団体同士や来場者が出会い、協働や新たな挑戦につながる機会を生み出す。



● 市民参加制度の運用

市政出前トーク、パブリック・コメント、審議会の公募委員制度等を適切かつ効率的・効果的に運営するとともに、政策の企画、実施、評価等の各段階において、市民参加の機会の拡大を進める。

京都市のパブコメPRキャラクター
「パブコメくん」 ▶

